



学校教育目標 いきいき学び、心豊かに生活し、未来を切り拓く 子どもの育成

- ・事実と知識を大切にし、探究する子ども
- ・自ら調べ、考え、学ぶ子ども
- ・人とのつながりを大切にする子ども
- ・豊かで楽しい生活を追い求める子ども

かぐわしい沈丁花の香りが春の訪れを告げるころとなりました。保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育推進のためにご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

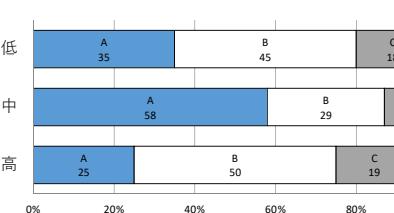
さて、今年度12月に実施しました後期ふり返りアンケートの集計結果について、お知らせいたします。

A…よくできている B…大体できている C…あまりできていない D…できていない

1 確かな学力

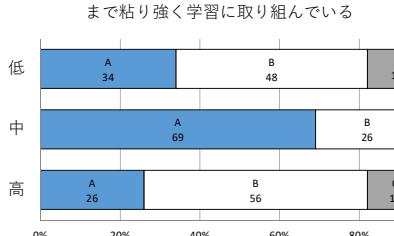
【家庭での自主学習】<児童>

①家で進んで宿題や自主学習（予習・復習）をしている



【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】

③学校でめあてをもってわかる（できる）まで粘り強く学習に取り組んでいる



【学習の準備】

<児童>

④学校に必要な物を自分で準備している

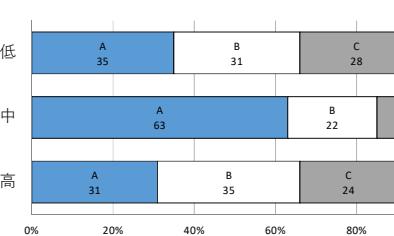


「家庭での自主学習」、「めあてをもって粘り強く学習に取り組む」については、前期と比べ、低・高学年のAB回答が減少（「家庭での自主学習」：低学年13ポイント減、高学年5ポイント減、「めあてをもって粘り強く学習に取り組む」：低学年14ポイント減、高学年2ポイント減）しています。学校生活にも慣れ、進んで行っていた宿題が、ついで後回しになってしまったり、学習内容が難くなったり、学習量が多くなったりすることで、学習意欲が低下することが要因ではないかと考えられます。中学年は、前期と比べるとA回答が増加（28ポイント増）しています。授業における子ども司会やICTの活用など、子どもが自分でめあてを設定し、意欲的に学習に向かえているからではないかと思われます。今後も、「なぜ家庭学習が大切なのか」「どのように進めるといいのか」など、発達段階に応じて児童が納得できるように指導するとともに、家庭と連携して働きかけを続けていきたいと思います。また、自主学習については、家庭学習の方法を分かりやすく伝えたり学習内容を工夫したりして学習習慣の確立、家庭学習の質の向上に努めています。

「学習の準備」については、前期同様、概ね自分で行う習慣が付いているようです。CD回答や自分で準備はしてても忘れ物が多いという児童については、一人一人に応じた個別の声かけをする等、ご家庭と連携しながら、学習準備の習慣が定着するように取組を進めています。

【読書の習慣】

<児童> ②本をよく読んでいる



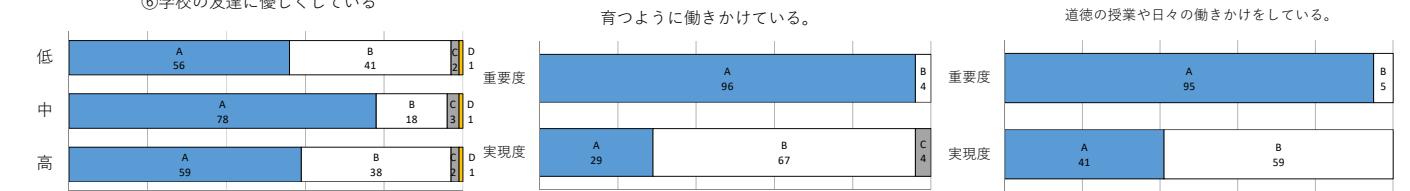
「読書の習慣」については、児童・保護者・教職員ともに90%以上が読書の重要性を感じていますが、「本をよく読んでいる」のAB回答が低学年66%、中学年85%、高学年66%と下回っています。このような結果となった要因として、絵本から読み物への移行がスムーズにいかず、年齢や実態に合った本に合わせないことが大きいと感じています。しかしながら、中学年では、前期と比べるとAB回答が11ポイント増加しています。教科学習の中で、図書を活用する経験を積んだことで、本に親しめたと感じる児童が増えたのではないかと考えます。今後も、短時間で読める本や文字の大きい本を配架したり、本の展示方法を工夫したりするなど、絵本から児童書へのスムーズな移行ができるよう取り組んでいきます。また、手に取りたくなる書架へのリニューアルを行ったり、各教科の学習とも関連させながら、いろいろなジャンルの本に親しむ機会を設けたりしたいと思います。冬休みの課題として行った「ブックウォーク」では、多くの児童が目標冊数を超える読書を家庭で行うことができました。家庭での本に触れるきっかけ作りとなるように、これらの読書週間の取組を今後も続けていきたいと思います。更に、引き続き学校司書や図書ボランティアの皆様とも協力して、日常の読書の習慣化につなげていきたいと考えています。

2 豊かな心

【思いやりのあるやさしい心】

<児童>

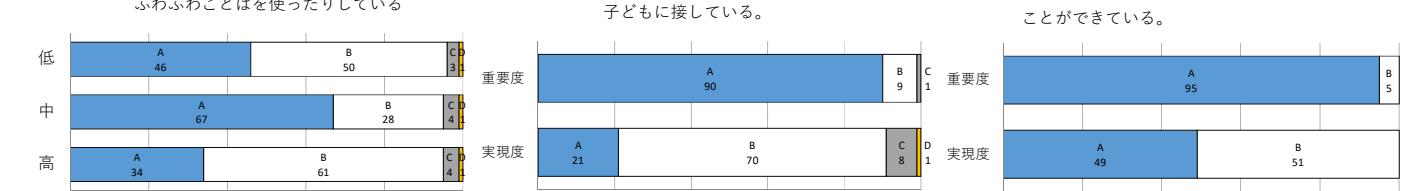
⑥学校の友達に優しくしている



【人権を大切にした教育】

<児童>

⑧友達の話をしっかり聞いたり、ふわふわことばを使ったりしている

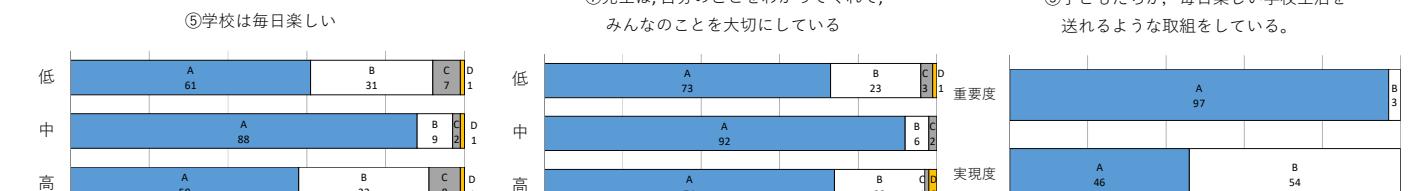


「思いやりのあるやさしい心」「人権を大切にした教育」については、前期同様、児童・保護者・教職員でAB回答が90%を超える結果となりました。本校のめざす子ども像、「人とのつながり」を大切にする子ども」に向けて、学校や家庭での取組の積み重ねが、このような良好な結果を招いていると考えられます。しかし一方で、CD回答の児童がいることもしっかりと受け止める必要があります。成長とともに自分のことを客観的に見ることができるように、友だち関係が深くなってきたがゆえに言葉遣いなどに遠慮がなくなったりしていることも考えられます。アンケートの結果だけではなく、普段の児童同士の関わり合いを教職員がしっかりと見取り、ふさわしくない言動については全教職員が同じ視点で指導することが大切だと考えます。どんな言葉をかけるとみんなが気持ちよく過ごせるか、どんな言葉をかけられたときに自分がうれしかったのかなどを交流し考えることにより、温かい言葉かけを実践していくようにすることも大切です。保護者・教職員においても、自らの言動が周囲に及ぼす影響を想像する力を養い、自らの人権意識を高めていくことが大切であると考えます。

【楽しい学校生活】

<児童>

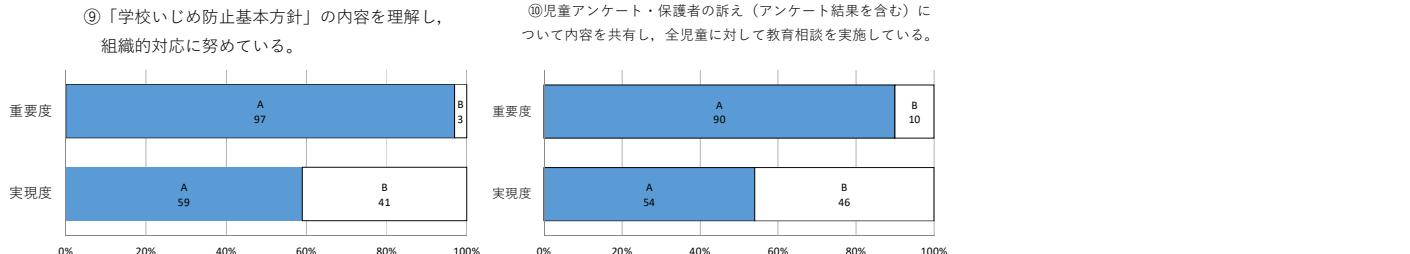
⑤学校は毎日楽しい



【いじめ防止のための取組】

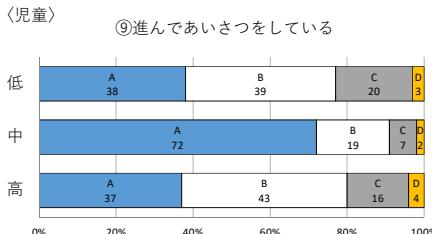
<教職員>

⑨「学校いじめ防止基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている

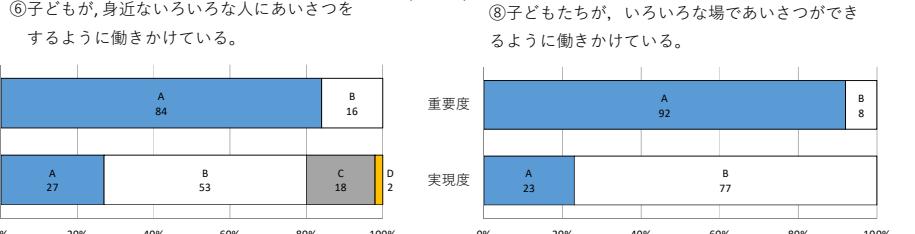


90%以上の児童が「学校は毎日楽しい」と感じているようです。また、「先生は自分のことをわかってくれて、みんなのことを大切にしている」でも多くの児童がAB回答となっています。児童にとって学校が安心して過ごせる場となっていることを大変うれしく思います。しかし、そうでないと感じている児童がいることもしっかりと認識し、担任をはじめとした教職員が的確に児童の様子を把握し、その思いを受け止めるために、児童の言葉に耳を傾け、家庭と連携しながら働きかけていく必要があると感じます。そのため、この「ふり返りアンケート」はもちろん、「いじめアンケート」、4年生以上の「クラスマネジメントシート」などを有効に活用し、児童の実態を把握することに努めています。更に「児童に対する教育相談の実施」は、確実に丁寧に行なうよう努めています。そのような教職員の働きかけが、児童の「学校が楽しい」「先生は自分のことをわかってくれて、みんなのことを大切にしている」の結果にもつながってくるのではないかと考えて取り組んでいます。

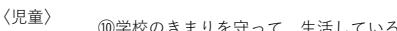
【あいさつをする】



〈保護者〉



【規則を守る】

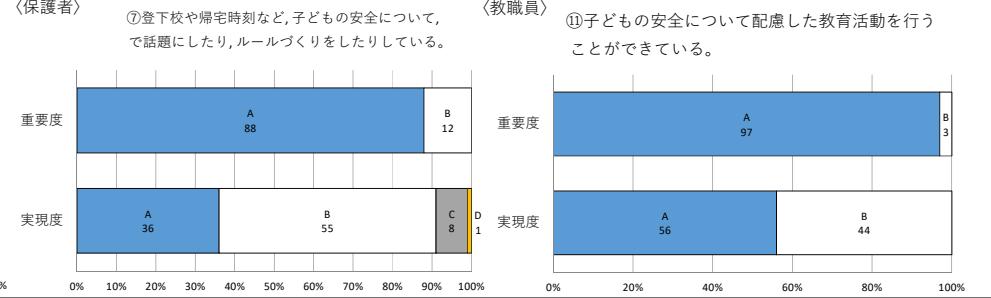
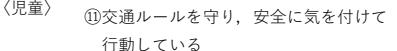


「あいさつをする」の児童の回答については、前期と比べると低・高学年でAB回答が減少(低学年18ポイント減、高学年5ポイント減)し、中学年においては増加(12ポイント増)しています。保護者も教職員もあいさつの重要性は感じているものの、実現度についてはA回答は30%未満と低迷しています。教職員や保護者をはじめとする身近な大人が、相手意識をもったあいさつをしていくことも必要だと考えます。相手意識をもってあいさつをすることが大事だということを児童が確実に理解し、TPOに応じたあいさつができるように取組を進めていきます。

「規則を守る」については、どの学年でもAB回答の割合が多くを占めています。規則を守ることは、友達を大切にし、自他の安全を守ることにつながるという人権の視点についても児童が理解できるようにするどもに、その重要性を自覚し、自ら行動できるような取組を今後も継続していきます。

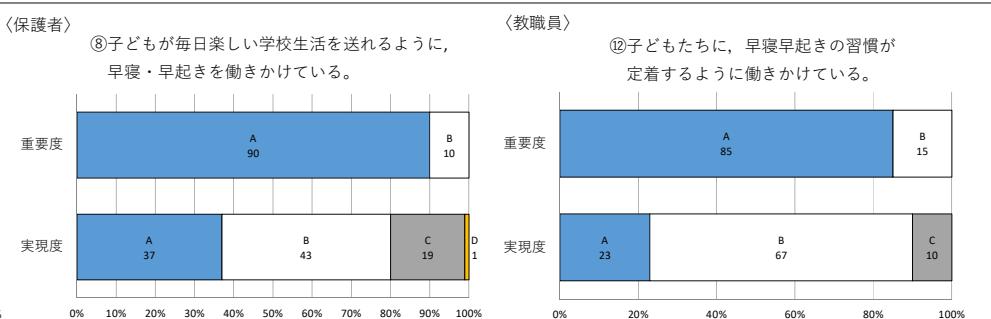
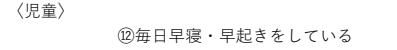
3 健やかな体

【安全に気を付ける】

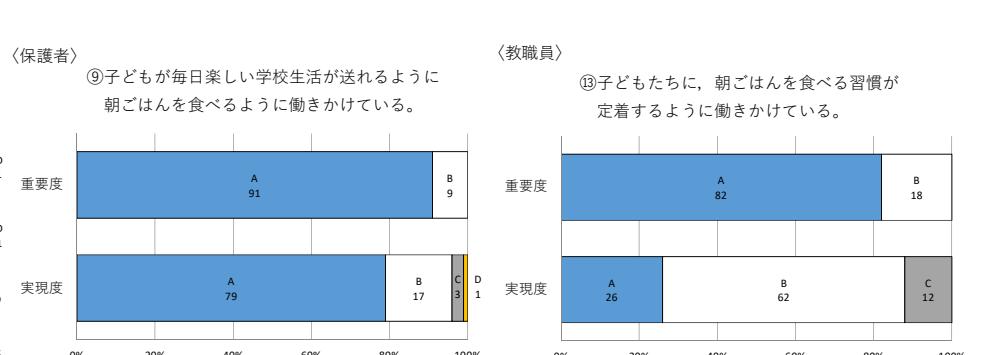


「安全に気を付ける」では、AB回答の児童の割合が100%近い結果となっています。多くの家庭で安全について話題にしていたり、学校でも安全に配慮した教育活動を心がけていることで、家庭と学校が連携した児童への働きかけができていることが伺えます。また、子ども見守り隊の方々も、児童の登下校の様子を毎日見守ってくださっています。しかし、児童の様子を見ていると、特に下校時に車が頻繁に通る道を走っていたり、友だちと遊びながら帰っていましたと、危険な場面をよく見かけます。11月に1・2年生対象の交通安全教室を実施し登下校時の安全について実践を交えた学習を行いましたが、今後も引き続き、見守り隊の方々とも連携しながら、児童の様子を見守り、必要に応じて注意を促していきます。それをお便り

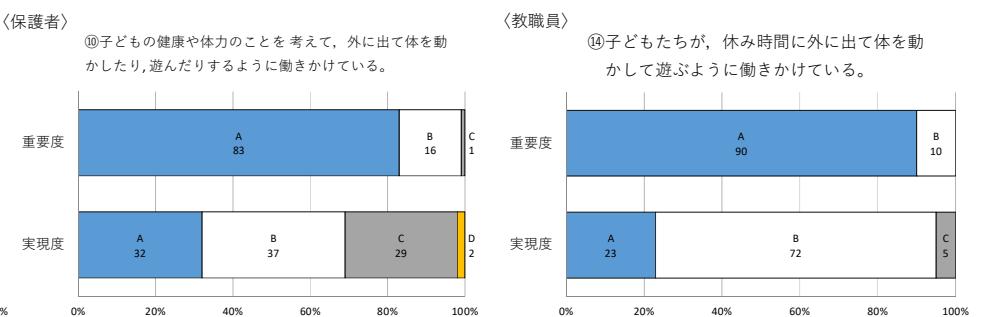
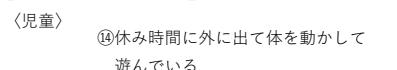
【早寝・早起き】



【朝ごはん】



【体を動かして遊ぶ】

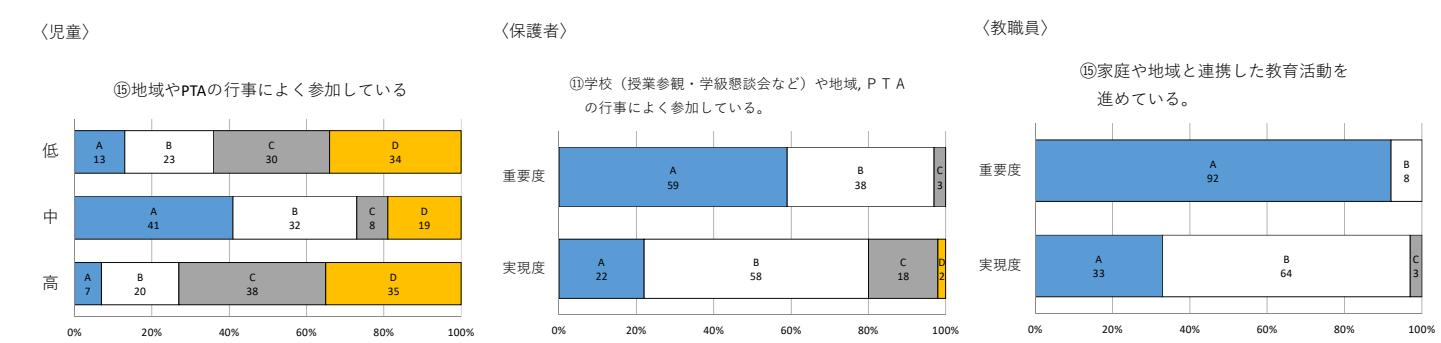


「早寝・早起き」については課題が見られます。どの学年においても、宿題や習い事、メディア(TV、ゲーム、タブレット)などに時間を費やすことが多くなっているため、就寝が遅くなることがあるようです。また、「朝ごはん」についてCD回答の児童も、少なからずいることが分かります。早起きができないため、朝食をしっかり摂ることができないのだと思われます。小学生の子どもたちにとって睡眠と栄養をしっかりとることが、よりよい心身の成長につながります。ご家庭でも生活習慣を今一度見直していただき、「早寝・早起き・朝ごはん」の定着を働きかけただけたらと思います。教職員の働きかけにも改善の余地があります。今後も、各学級での指導に加え、保健だより等で睡眠時間の確保の大切さや時間の使い方(TVを観る時間、物事の優先順位など)、体育科の保健学習や養護教諭による保健指導、栄養教諭による食の学習とも関連させながら、規則正しい生活習慣の確立、健康への意識を高めていきます。

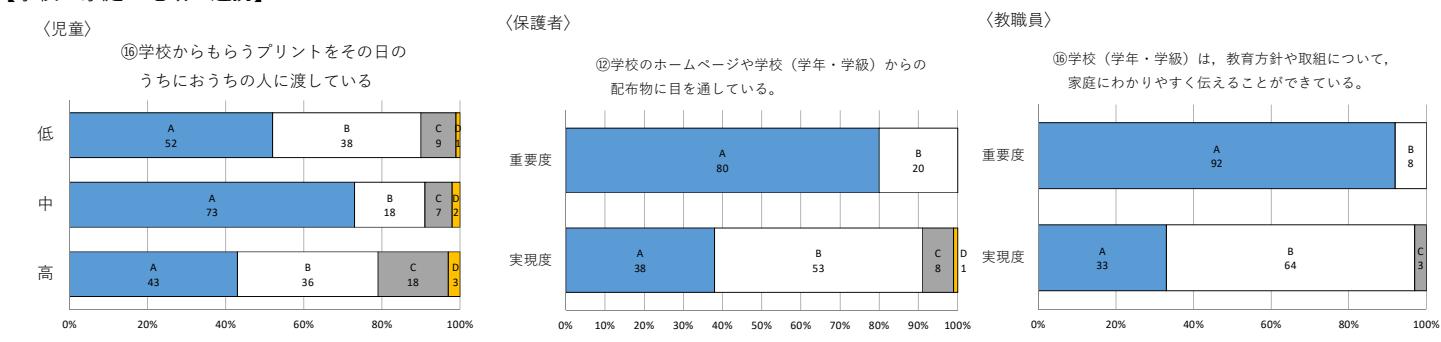
「休み時間に外に出て体を動かして遊んでいる」については、コロナ禍の影響により運動場で遊べる時間や内容に制約があるため、外で体を動かして遊ぶことができないと感じる児童が多くなっているようですが、前期と比べると少しAB回答が増加しました。外で思い切り体を動かして遊ぶことは、子どもたちにとってストレス発散にもなり、よりよい心身の成長にもつながります。今後も、感染予防をしながら、体を動かして遊ぶことが増えるよう働きかけを続けていきます。更に、様々な遊びに挑戦する「ジャンプアップ週間」も活用しながら、児童の体力向上をめざした取組を進めています。加えて、体を動かして遊ぶことが成長に及ぼすよさも伝えていきます。

4 その他

【地域・PTA行事への参加】



【学校・家庭・地域の連携】



「地域・PTA行事への参加」については前期同様、様々な地域・PTA行事が中止となっているため、児童の実現度は全体的に低くなっています。保護者の結果からは、参加することは重要と考えてはいるが、コロナ禍の影響があったり、時間的な余裕がなかったりすることで参加できていないという実態もかがえます。年に数回でも参加できる機会があれば、地域のたさんの人々とつながることができます。災害等、何かが起こった時にお互いに助け合える絆づくりを普段からしておくことも大切だと考えます。そういう視点からも、今後、行事が再開されたら、学校ホームページや学校だよりを通して広報に努め、参加を呼びかけていきます。

「学校からもらうプリントをその日のうちにおうちの人へ渡している」では、高学年のCD回答が増加しています。このことから、学年が上がるにつれてルーズになっていることが伺えます。学校からのおたよりなどが配布された日に、確実にご家庭に届くように、普段から持ち物を整理整頓する習慣付けを今後も行なっていきます。また、学校ホームページについては、タイムリーに更新して情報発信に努め、家庭や地域の学校教育活動への理解を得るとともに、家庭や地域と連携した取組を更に進められるようにと考えています。

◆学校評価アンケート – 振り返りを通してより良い教育活動へ –

京都市教育委員会生涯学習部より発行されている「コミュニティ・スクール通信@京都」にも掲載されているように、子どもたちの学校生活をよりよいものにするためには、学校・家庭・地域が互いに高め合う双方向の信頼関係を構築することが何よりも大切です。そして、三者が「子どもたちのために、自分はどのようなことができるだろうか。」という意識をもって、それぞれが教育活動に参画し、子どもを育むための取組を進めていくことが大切です。

子どもたちへの教育は、学校だけで行うものではありません。「PLAN」(教育計画)⇒「DO」(教育活動)⇒「CHECK」(点検【評価】)⇒ACTION(修正・改善)のサイクルの中で、教職員は、「教職員アンケート」を通して自己の取組について振り返っています。同様に、保護者の方にもアンケートを通して「自分はできているだろうか。」と振り返って考えていただき、今後のより良い教育活動に生かしていただく機会として、「保護者アンケート」を実施しております。ご理解いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。